

# 玉川大学文学部国語教育学科の教員養成課程の成果と課題

## —教育委員会が求める初任者教員の能力の分析をもとに—

篠崎祐介・鈴木美穂・富士池優美・北原博雄  
中田幸司・長谷川洋二・林 大悟・太田 明

### 要 約

玉川大学文学部国語教育学科において、国語科教員としての高い資質能力を有する学生を養成していくにあたり、グローバル時代における国語科教員の資質能力の具体像を明らかにしながら、その効果的な養成方法を検証することとした。本研究では、国語教育学科の教員養成課程として成果と課題を明らかにすることを目的として、南関東圏内の教育委員会が求める初任者教員の能力を分析し、国語教育学科の4年次生が学修したと考えている項目を分析した。その結果、教育委員会は教科指導や学級経営、チームワーク等の能力を新任教員に求めていることが明らかになった。一方、国語教育学科の学生もそれらの観点に関わる能力を学んだと考えていることが示唆された。ただし、各観点に対してどの程度の段階まで学生の学修が促進されたのかは課題として残った。

キーワード：教員育成指標、教育委員会、初任者教員、教職課程、国語科教育

## 1 研究の目的

文学部国語教育学科において、国語科教員としての高い資質能力を有する学生を養成していくにあたり、4年計画で、グローバル時代における国語科教員の資質能力の具体像を明らかにしながら、その効果的な養成方法を検証することとした。これまでの研究では、国際バカロレアの教員に対するインタビュー調査によりこれからの社会に求められる教員の能力の一端を明らかにした（篠崎祐介・鈴木美穂・富士池優美・北原博雄・中田幸司, 2019）。また、初年次教育における実践の分析（篠崎祐介・鈴木美穂・富士池優美・北原博雄・中田幸司, 印刷中）や、実践を踏まえた教材開発を行ってきた（難波博孝・長谷川洋二・林大悟・篠崎祐介他, 2020；篠崎祐介, 2021）。3年目にあたる本研究では、国語教育学科の教員養成課程として成果と課題を明らかにすることを目的として、南関東圏内の教育委員会が求める初任者教員の能力を分析するとともに、国語教育学科の4年次生が学修したと考えている項目を分析する。

## 2 分析1—教育委員会が求める初任者教員の能力

### 2-1 方法

国語教育学科の2020年度卒業生が受験した南関東圏内の教育委員会の教員育成指標（注：2016年11月に教育公務員特例法が一部改正され、公立の小学校等の校長及び教員の任命権者に校長及び教員としての資質に関する指標を策定することが義務づけられた。）から入職時相当の指標を抽出し、KJ法（川喜田，1967）の手続きを参考にして、筆頭者1名と共著者のうち3名で、各指標を類似した内容でカテゴリ化した。カテゴリ化の最終的な判断は筆頭者が行った。

なお、対象とした資料は次の通りである。

- ・東京都教育委員会「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」・「教育課題に関する対応力の具体的な項目」『学び続けよう，次代を担う子供のために—令和2年度東京都教員研修計画』2019年12月，pp. 4-6
- ・神奈川県教育委員会「めざすべき教職員像」『神奈川県のめざすべき教職員像の実現に向けて—校長及び教員の資質向上に関する指標』2017年8月
- ・川崎市教育委員会「川崎市教員育成指標 ステージ0 全体Ver.」『子どもたちとともに学び続ける教員であるために—川崎市教員育成指標〈ステージ0〉』2019年3月，p. 4
- ・横浜市教育委員会「横浜市 教員のキャリアステージにおける人材育成指標」『横浜型育ち続ける学校—校内人材育成の鍵 ガイド編』2017年3月，p. 6
- ・相模原市教育委員会「相模原市 教職員のライフステージにおける人材育成指標」『令和2年度 相模原市立学校教職員研修講座案内』2020年4月，pp. 5-6

### 2-2 結果

158の能力を抽出し、44のサブカテゴリに整理した上で、【人格的資質を有する】【教員としての使命感を有する】【教員として学び続ける資質を有する】【学習指導力を有する】【個や集団を指導できる】【保護者・地域・外部機関等と連携できる】【組織の一員として連携できる】【多様な教育課題に対応できる】という8のカテゴリを作成した（表1）。

## 3 分析2—国語教育学科4年生が学修した項目

### 3-1 方法

教職課程を受講している4年次生計10名を対象に、2020年11月にzoomを利用してオンライン上でインタビューを実施した。なお、調査の趣旨を説明し同意を得た上で実施した。

まず、5名を対象に、「4年間を振り返ってどのような変化があったか」「どのような学修内容が役に立ったか」を主な質問項目として、半構成的にグループインタビュー（安梅，2001）を120分程度で実施した（インタビュー①）。

次に、5名をシンポジストとして「一年次セミナー」における1年次生を聴衆とした90分程度のシンポジウムに参加してもらい、「4年間を振り返ってどのような変化があったか」「どのような学修内容が役に立ったか」を主なテーマに、半構成的なインタビュー形式で発表を行わせた（インタビュー②）。

そして、これらのインタビューの逐語録を作成し、インタビュー①を共著者のうち2名が独立して、インタビュー②を共著者のうち2名が独立して、重要な内容を取り上げてコーディングを行った。次に、コーディングを行った4名と筆頭者1名の5名で、コーディングの妥当性を検討し修正を行った上で、KJ法の手続きを参考にして、取り上げられた内容を類似する内容によってカテゴリ化した。カテゴリ化の最終的な判断は筆頭者が行った。

### 3-2 結果

165の項目を抽出、48のサブカテゴリに整理した上で、【主体性・自律性に関する学び】【協働性・社交性に関する学び】【教職に関する学び】【カリキュラムの良い点】【指導方法の良い点】【進路選択の機会】【学べる人的環境】【カリキュラム上の課題】【指導方法に対する要望】という9のカテゴリを作成した。そして、これらを「学修成果についての観点」（表2）、「教育方法の優れていたと考えられる点」（表3）、「教育方法の改善が求められる点」（表4）の3観点に区分けした。

表1 教育委員会が求める初任者教員の能力

カテゴリ	サブカテゴリ	アイテム例
人格的資質を有する	人間関係を構築できる	周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。
	社会人としてのマナーを身につけている	社会人としてのマナーを身に付け、他者を共感的に理解している。自身の健康管理と基本的な生活習慣の維持に努めている。
	人権感覚を持っている	適切な人権感覚及び社会人としての礼儀や規律を身に付けている。高い倫理観をもち、公平公正に行動できる。
	法令遵守の姿勢を身につけている	教育公務員として必要な法令や規則を知り、遵守の姿勢を身につけている。

教員としての使命感を有する	教職への使命感をもっている	子どもへの教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもっている。子どもの成長を願い、夢をもつ。
	郷土愛を有する	横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。
教員として学び続ける資質を有する	研修に努める	研究会や研修会に積極的に参加する意義を理解し、実践しようとしている。授業を公開し、授業分析から課題を明らかにする。
	学び続ける姿勢をもっている	自ら学ぶ姿勢をもち、社会の状況を把握して、変化に対応し、教員を目指して成長するために学び続ける。
	教育課題への関心をもっている	教育における新たな課題や動向に関心をもち、理解している。
	教職の知見を深める	教職と出会い、学校と出会い、教師という仕事に触れるとともに、教育の歴史制度について学び、教職に対する理解や認識をもつ。
学習指導力を有する	学習指導要領を理解した指導計画と学習指導を行うことができる	学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいに迫るための指導計画の作成及び学習指導を行うことができる。
	学習指導案を作成できる	学習指導案作成や教材作成の基本的な手法について理解している。
	教材研究を行える	子どもが意欲を持ち、わかる授業を実践するために、子どもの学習状況や実態を把握し、教材研究を行う大切さを理解している。
	学習評価を理解した実践を行える	評価全般の意義及び、評価規準、指導評価計画の意味を理解し、立案しようとしている。指導と評価が一体化した計画を立てる。
	アクティブ・ラーニングを実現できる	「カリキュラム・マネジメント」を踏まえた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて理解を深め、推進している。
	授業改善を行える	授業改善の意義や授業を分析し改善する手立てを理解し、実践しようとしている。
	授業に必要な基礎的スキルを有している	板書や発問等の基本的な指導技術を身につけ、実践しようとしている。
	個や集団を指導できる	子どもに応じた指導を行える
集団を指導できる		高い集団指導の力をもち、望ましい学級づくりができる。児童生徒と信頼関係を構築して、授業、学級での規律を確立できる。

玉川大学文学部国語教育学科の教員養成課程の成果と課題

	学級経営による子ども同士の人間関係形成	児童生徒にとって魅力ある学級をつくり、豊かな人間関係を育むことができる。互いを大切にし、高め合える集団をつくる。
	子ども理解に努める	児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。家庭状況や人間関係を正確に把握する。
	学習状況を把握できる	学習状況を適切に評価し、授業を進めることができる。学習内容に関する子どもの実態を把握する。
	興味関心を引き出すことができる	児童生徒の興味関心を引き出し、個に応じた指導ができる。
	子どもの力を引き出す	子どもの個々の教育的な課題を捉え、状況に応じて子どもにアドバイスを与えようと努めている。
保護者・地域・外部機関等と連携できる	保護者・地域・外部機関との連携	保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家との連携協働の重要性を理解している。
	保護者等との信頼関係の構築	保護者会等の進め方を理解し、保護者に伝える内容を整理するとともに、信頼関係を構築することができる。
	資源の活用	学校内外の資源の種類やその活用の目的意義を理解し、実践しようとしている。
組織の一員として連携できる	他の教員への相談	上司や先輩へ適切に報告連絡相談するなど、円滑なコミュニケーションを図り校務を遂行できる。
	他の教員と協力して取り組む	組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。
	教職員の連携を組織する	コミュニケーションを自らとり、組織の活性化を図る。リーダーシップを発揮し、連絡や調整をする。
	組織の一員として役割を果たす	組織の一員として校務に積極的に参画できる。自分の得意分野を理解し、その向上と教育への活用について考えをもっている。
	学校教育目標を理解した教育活動を行う	ビジョンをもち、具体策を考える。学校教育目標の具体化に向けて、積極的に学校運営に参画する。
	学校組織や校務分掌の理解と担任の役割の理解	学級担任の役割と職務内容及び、学校組織運営や校務分掌を理解し、自分にできることを実践しようとしている。
多様な教育課題に対応できる	キャリア教育の推進	児童生徒の状況に応じたキャリア教育の計画を立てることができる。
	グローバル人材の育成	児童生徒に対して、日本人としての自覚と誇りを涵養し、豊かな国際感覚を醸成することができる。
	人権教育の推進	児童生徒が人権課題について正しい理解と認識を深め、偏見や差別意識を解消しようとする態度と実践力を育む指導ができる。

道徳教育の推進	よりよく生きるための基盤となる道徳性を、児童生徒自らが考え、議論し、行動しながら身につけられる指導ができる。
いじめへの対応	いじめや自殺等の防止に向けて、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等の具体的な取組を組織的に推進することができる。
不登校への対応	不登校になったきっかけや継続理由を把握し、その児童生徒に必要な支援を保護者や関係機関と連携を図りながら行うことができる。
多様なニーズへの対応	障害のある子どもや日本語指導の必要な子ども、不登校の子ども等、特別な配慮を必要とする子どもの個性を認め、一人ひとりのニーズに応じた指導を行う必要性を理解し、その方策を考えようとしている。
情報教育の推進	児童生徒に、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度を育成することができる。
ICT活用	子どもの理解を助けるために、ICT等の教育機器や教材教具を効果的に授業に活用しようとしている。
学校安全に関する事項	危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。
オリンピックパラリンピック教育の推進	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じ、児童生徒一人一人の心と体に人生の糧となるレガシーを形成するための指導ができる。

表2 学修成果についての観点

カテゴリ	サブカテゴリ	アイテム例
主体性・自律性に関する学び	自分と向き合う	自分と向き合う時間だった。自分の将来のことを考える時間が多かった。
	主体的に行動する	何でも面倒くさいと思わずに、自分がまずは行動してみんなを引き連れていくぐらいの勢いでいろんなことを挑戦したほうがよい。短期的なものでも構わないのでまず何か目標を持ってほしい。
	継続して課題に取り組む	うまくやりきる力がついた。嫌なことも向き合えるようになった。
	課題の優先順位を考えられる	目標のためにしなければいけないことを逆算できるようになった。嫌なこともどう乗り切るかを考えられるようになった。部活・授業・バイト以外の時間をどうやりくりするかに頭を使った。
	時間管理ができる	通学時間を有効活用した。少し早めに行動することは社会に出ても大事。

玉川大学文学部国語教育学科の教員養成課程の成果と課題

協働性・社交性に関する学び	チームワーク重視	チームと自分を考える。グループワークなどで他の学部学科の人と話す機会は多かったかもしれない。
	チームワークに関する学び	チームで動くことを覚えた。1人で頑張るだけでなく誰かを励ますことも体験できたことを教員になったら子どもたちにも伝えていける。
	人間関係の構築	いろんなところに参加したからいろんな友達ができ、いろんな考え方ができるようになった。
	他者の視点に関する学び	いろんな立場に立ってものを考えることができる。人間の考え方に触れられる科目。
	話すことに関する学び	問の取り方や話す内容などを考えることができた。自己紹介の肝みたいなものを学んだ。
	書くことに関する学び	小論文の書き方がうまくなり、子どもに教えるときや自分で書くときに使える。
教職に関する学び	教師像の形成	4年間で悩みながら学んでいく中で教師像をつくり上げていく。
	教職の使命に関する学び	実習の先生の話から教職を使命と思うことができた。
	学校現場に関する学び	玉川は現場から出てる先生が多いから実践的な知識を得られた。実践で生かせる教職関係の授業。
	特別支援に関する学び	理論に基づいて特別支援が学べて一般級の生徒たちにも役に立てることばかりだった。
	いじめ問題に関する学び	いじめの対応について学んだ。
	子どもの視点に関する学び	文化の違いや家族構成など、教師になったときに配慮すべきことを考えられた。子ども目線に立てたのが大きかった。
	教員の人柄に関する学び	授業で雰囲気が大事であることを学べた。楽しそうに授業してる先生の授業のほうが楽しい。
	教員の視点に関する学び	ボランティアは子どもたちとの関わりに加え、先生側の動きを見て質問することが重要。
	教材研究に関する学び	調べて考えて発表する授業で教材研究の仕方を学ぶことができる。
	ICT活用に関する学び	グループワークでLINEを有効活用した。

表3 教育方法の優れていたと考えられる点

カテゴリ	サブカテゴリ	アイテム例
カリキュラムの良い点	授業と教員採用試験とのつながり	教職科目が教採対策になる。発達心理学、教育心理学、教育課程編成論は教員採用試験対策科目にもなる。

	教育実習までの連続性	教育実習に生かされた。教育実習を経験した後であれば参観実習での見方も変わる。
	CAP制のメリット	16単位上限によって空いた時間を有意義に使える。教職科目を卒業履修単位に入れている点がありがたい。
	玉川大学の理念で心に残っていること	玉川の理念や全人教育を意識して4年間を過ごした記憶はないが、振り返れば関連するワードは自然と出そう。
	参観実習のメリット	参観実習が1日では物足りなかったからこそボランティアに行きたい意欲が湧いた。
	スクールインターンシップのメリット	スクールインターンシップに行っていなかったら教育実習耐えられなかった。ボランティアで先生方が私を知ってってくれるから安心感が実習であった。
指導方法の良い点	達成感を感じられる授業	到達点に向って活動し締めくくりがある授業。自分たちの足りない部分を洗い出して自分たちで組み上げたものが実現できる流れがある授業。
進路選択の機会	子どもとの関わりと教員志望	ボランティアやインターンに出たことで教員への進路が決まった。いろんな授業や勉強があったから教育実習がターニングポイントだと思えた。
	自身との向き合いと教員志望	自分を成長させたいという思いをもつことで積極的になり進路が決まっていた
	先輩との関わりと教員志望	先輩との関わりや先輩からいただいた言葉が進路選択のきっかけだった
学べる人的環境	仲間との学び	互いを高め合う学科。ラーニングコモンズに行ったら誰かいる。みんなで毎日遅くまで残って練習するのが辛いけど楽しかった。仲間に支えられながらやってきた。一緒の夢を持った仲間と切磋琢磨し合うこの環境が大学にはあったことがよかった。
	「玉川」のネットワークの強さ	教育実習で玉川卒の先生方が現場に多いと思った。玉川卒の先生が実習先においてコミュニティが広がった。

表4 教育方法の改善が求められる点

カテゴリ	サブカテゴリ	アイテム例
カリキュラム上の課題	時間割編成の問題	体育の後は時間割的に悪かった。必修科目と重複して履修できない授業があった。
	資格取得とカリキュラム編成の問題	図書館関連の授業と重複したので履修できなかった科目がある。特別支援の教員免許を取りたいと思ったときに取れない。



玉川大学文学部国語教育学科の教員養成課程の成果と課題

	履修しなかった科目	第二外国語を学びたかった。「英語で読む日本文学」をとりたかった。経済系の授業をとりたかった。
	CAP制の問題	上限単位で履修の優先順位が決まってしまう。いろんな興味を持つ中で各セメスターの上限が16単位は厳しい。
	全休の必要性和目的	履修すると全休がなくなるため履修しなかった。全休があればボランティアにも費やせる。
	入学前のコース選択の難しさ	入学時のコース選びが悩み
	先輩との関わり	大学の成績は駄目だったけど頑張っ乗り越えて教員採用試験に受かった4年生などの話を聞く場も欲しかった。
	参観実習の課題	ボランティアに後で行って現場を知れたので参観実習は必要ない。参観実習のときは指導案が何か分からない。参観実習では何を狙いで授業をやっているかなど全然分からない。
	スクールインターンシップのカリキュラム的課題	インターンシップのために全休つくらないといけなかった。部活の時間を優先したかったのでインターンもボランティアも行ってない。
	インターンシップの周知の必要性	インターンシップの案内があれば行く学生が増えたかもしれない。
	インターンシップの受入校と地理的關係	地方の人とかだとインターンシップ先の自己開拓が難しい。地元の母校だったからスクールインターンシップに行けた。
	教育実習のカリキュラム的課題	好きで休んでいるわけではないのに教育実習が公欠にならないことが納得いかない。教育実習で休んでいる授業が聞きたい授業かもしれないのは不公平。教育実習期間によって、履修登録科目を変えたのかもしれない。
指導方法に対する要望	担当教員への不満	トイレに立ったら怒る先生が嫌だった。強く言ってきたり押し付けてくるような言い方をしてくる先生は嫌だった。他大学と比較して私たちが批判しないでほしい。
	授業への不満	みんなの学びの場なのに何か特技を披露する場みたいになっていた授業はちょっとって思った。何で俺らがそれやんなきゃいけないのって思う授業。高校生でもできる内容で大学生のレベルではない授業。
	模擬授業に対する要望	模擬授業を1人で全部やってみたかった。様々な種類の文章に対する指導案や授業づくりを経験できていたら良かった。

## 4 考察

文学部国語教育学科は、「人材養成等教育研究に係る目的」<sup>注1)</sup>として、「国際社会の一員であるとの自覚をもち、母語としての日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置き、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる人材を養成する」こととしている。

また、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」<sup>注2)</sup>として、「『国語教員養成コース』においては、中学校・高等学校の教育現場で指導ができるよう、言語技術の学習の基礎の上に、日本語や日本文学について専門的に学び、さらに国語科の指導法を修得できる効果的な国語教員養成プログラムを構築する」としている。

こうした文学部国語教育学科における教員養成上の目的や方針は、教科指導の能力の育成に焦点を当てた記述となっている。

一方で、教育委員会が求める教員の能力には、【学習指導力を有する】という教科指導の能力的側面の他にも、【個や集団を指導できる】【多様な教育課題に対応できる】といった学級経営面や【保護者・地域・外部機関等と連携できる】【組織の一員として連携できる】のようなチームワーク的側面、そして、【人格的資質を有する】や【教員としての使命感を有する】、【教員として学び続ける資質を有する】のような人格的側面が挙げられている。

国語教育学科における教員養成として、学生がどのような学びを得たのかが問題となる。「学修成果についての観点」をみると、《教材研究に関する学び》のように教科指導に関わる学びの他にも、《子どもの視点に関する学び》や《いじめ問題に関する学び》のような学級経営に関わる学び、《チームワークに関する学び》《人間関係の構築》のようなチームワーク的側面、そして、《教職の使命に関する学び》《教員の人柄に関する学び》《継続して課題に取り組む》のような人格的側面での成長を学生が実感していることがうかがえる。

これらのことを踏まえると、文学部国語教育学科では学校現場が求める教員の能力の観点に対応した教育を実施していると考えられる。しかし、学校現場が求める教員の能力の観点には対応しているとはいえるものの、各観点に対してどの程度の段階まで学生の学修を促進できたのかは明らかになっていない。また、国語教育学科として育成したい能力との関連は明らかになっていない。今後の課題である。

## 附記

本稿は、令和2年度玉川大学共同研究助成金「グローバル時代における国語科教員の資質能

力の養成に関する研究（継続研究3年目）」の研究成果です。

## 注

- 1) 玉川大学文学部HP [https://www.tamagawa.ac.jp/college\\_of\\_humanities/policy/index.html#anc03](https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/index.html#anc03)  
(2021年11月1日閲覧)
- 2) 同上

## 参考文献

- 安梅勅江（2001）『ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法』医歯薬出版
- 川喜田二郎（1967）『発想法』中央公論社
- 篠崎祐介（2021）「(会員の本（新刊紹介））論理力ワークノート ネクスト」『リメディアル教育研究』15, 101
- 篠崎祐介・鈴木美穂・富士池優美・北原博雄・中田幸司（2019）「これからの国語科教員養成課程のあり方に関する基礎的研究—IB教員へのインタビューによる国語科教員に求められる資質・能力の検討」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報』9, 39-46
- 篠崎祐介・鈴木美穂・富士池優美・北原博雄・中田幸司（印刷中）「大学初年次生への読書指導法の探究—会話の分析を中心に」『リメディアル教育研究』<https://doi.org/10.18950/jade.2021.07.20.03>
- 難波博孝・長谷川洋二・林大悟・篠崎祐介・幸坂健太郎・本渡葵・相澤理・小池陽慈（2020）『論理力ワークノート ネクスト』第一学習社

(しのざき ゆうすけ)  
(すずき みほ)  
(ふじいけ ゆみ)  
(きたはら ひろお)  
(なかだ こうじ)  
(はせがわ ようじ)  
(おおた あきら)

# Achievements and Challenges of the Teacher Training Program in the Department of Japanese Language Education, College of Humanities, Tamagawa University

Yusuke SHINOZAKI, Miho SUZUKI, Yumi FUJIIKE, Hiroo KITAHARA,  
Koji NAKADA, Yoji HASEGAWA, Daigo HAYASHI, Akira OTA

## Abstract

In order to train students with high qualifications as Japanese language teachers in the Department of Japanese Language Education, College of Humanities, Tamagawa University, we decided to clarify the specific image of the qualifications of Japanese language teachers in the global age and to verify the effective training method. In this study, we analyzed the abilities of beginning teachers required by the Board of Education in the South Kanto region, and analyzed the items that the fourth-year students of the Department of Japanese Language Education thought they had learned, with the aim of clarifying the results and issues as a teacher training course of the Department of Japanese Language Education. As a result, it was clarified that the Board of Education requires new teachers to have abilities in subject teaching, classroom management, and teamwork. On the other hand, it was suggested that the students of the Department of Japanese Language Education also thought that they had learned abilities related to these perspectives. However, it remains to be seen to what extent the students' learning of each perspective has been promoted.

Keywords: Teacher Development Indicators, Board of Education, Beginning Teachers, Teacher Training Course, Japanese Language Education